

第1回 福井県子ども・子育て応援会議 議事録

- 1 日 時 令和6年6月12日(水) 13:15～15:00
- 2 実施方法 対面(福井県庁地下1階 正庁) および オンライン
- 3 出席委員 委員名簿のとおり
- 4 事務局 福井県健康福祉部長、福井県健康福祉部副部長(子ども未来) 他
- 5 配布資料 別添のとおり
- 6 議事の経過および結果

(1) 開 会

健康福祉部長あいさつ

(2) 委員長の選出

「福井県子ども・子育て応援会議」設置要綱【資料1】に基づき、委員長に石川委員が就任することを決定

[委員長]

- ・子ども大綱に基づいて子ども計画を策定するにあたって、子どもまんなか社会という大きな理念のもとで子どもを権利の主体と認め、次代の子どもたちのために、どのような生活環境や学習環境を整えていくのか、貧困への支援をどうするのかを考える必要がある。そのうえで、すべての子どもが、健全に育ち、自らの夢と希望を持って毎日を幸せに過ごすという社会づくりを考えねばならない。少子化がさらに進んだという状況の中で、子どもが生まれる、子どもとともに大人が生活するという意味、それは個人的であっても、社会全体であっても、その意味をこの会議を通して皆さまと一緒に考える機会になればいいと思う。
- ・越前市は産業を支える貴重な人材として、日本人と外国人市民の交流、それから多文化共生の教育保育も重要なテーマになっている。
- ・障がい児・障がい者の教育保育も含めた広く大きな意味合いで、インクルーシブというコンセプトも大事にしていきたい。
- ・社会全体のICT化、AIやチャットGPTなどの普及が進んでいるが、生身の人間が関わるといふことの価値や、人が自ら考えるといふことの価値をどういうふうに位置づけるのかといふことも、皆さまと一緒に考えていきたい。
- ・また、保育者や看護師の養成をどうするか、政策とセットで議論していかなければならない。

(3) 講演

【資料2】により茂木氏から説明

その後、質疑・意見交換

[委員]

- ・政策が十分に周知されていないのではないかということが大きなポイント。
- ・男女の役割規範が未だに残っている。女性の結婚意欲が男性に比べて低いという結果は、家事などの負担がより女性のほうに、かかっている現状からきているのではないかと。ジェンダ

一教育が大切。

- ・ウェルビーイングの実現という観点からも、学校やその他社会においても、子どもや若者の声を政策に反映していくことは大事。

[委員]

- ・「生活に余裕があれば（もう1人）子どもを持ちたいと考えている」中間層の、経済的な余裕や時間的な余裕を作ることが大事。
- ・ジェンダー平等という点で、理想の家事育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこととして、男性は、労働環境是正がニーズとして高く、女性は、男性への啓発活動が必要。この点男女の意識の差が非常に大きい。男性も女性も半々で家事を担っている状態を希望していながらも、まだ届いていないという現状がある中で、施策を進めていくうえで、キーパーソンになってくるものとして何か感じるものがあったら教えてほしい。

[アドバイザー]

- ・合計特殊出生率を指標として用いるのは慎重にしなければならない。
- ・子どもの時からジェンダー教育をするのであれば、教育機関との連携は必要。家庭内から変えていくことも必要。
- ・ジェンダー教育よりも、職場で育休を取得してもらうことや、子どもがまだ0歳から3歳ぐらいの時は、時短勤務をできるようにするとか、日本の優れている制度を当たり前に見えるような、社会にしていくことが必要。男性にも育児と家事を両立することの実感を持ってもらうことが自然にジェンダー教育につながっていくと考えている。そういう家庭で育った子どもは、ジェンダー平等の価値観が高く、自然に意識していくことになるのではないか。

(4) 議事

【資料3、4、5】により事務局から説明

その後、意見交換

<出席委員の発言概要>

[委員]

- ・子育てについての義務や責任を感じる人が多い。これまで保護者の経済的負担を軽減する時に、子育てはお金がかかるからだとか、非常に負担が大きいから、という論調だったが、その反面効果としてマイナスイメージが強く残ってしまった。子育ての喜びだとか、毎日の生きがいだとか、いろんな子どもを通して、我々自身が学ぶような、ポジティブイメージの発信も大事。
- ・18歳で流出した若者に、理想のライフスタイルが福井で実現できるというメッセージを発信することが必要。

[委員]

- ・施策の周知については、しっかり届けるべき人に届けることが大事。
- ・短期の目線として、もう1人子どもをほしいと考えている人口集団にスポットを当てて、声をどう聞き取って政策に反映していくかを検討するとよい。

[委員]

- ・子どもだけでなく、子どもを取り巻く地域や若者たちの意見を聞くとよい。
- ・制度を知らない人もいる。共働きの世帯が多いことと、保育施設が充実しているがゆえに、ふく育さんを知らないなどあると思う。経済的にゆとりのある家庭であれば、そういった事業に関しても意見がたくさん出るのではないか。

[委員]

- ・「地元で働きたいけど、地元で就職説明会がない」「どこで知れるかわからない」などの声がある。リモートでいいので、そういうことを周知してほしい。
- ・子育て中の方で、保育士になりたいという方が2人いた。集中講義などをして保育士志望の方を応援してほしい。

[委員]

- ・ふく育さん、ふく育タクシーをどんなことで使っていいのか、具体的なことまでがわからない。洗濯物をたたむことをお願いした事例を聞いた。些細なことでも使えるよというメッセージでどんどん事例を出してほしい。
- ・保守的な県民性もあるため、県から「利用してください」と伝えるとよい。例えば母子手帳の配布時に、「お母さんの権利」という視点を伝えて、どんどん利用を促進してほしい。

[委員]

- ・男性に対する事業周知が必要。目標値はチャレンジしないと届かない数値にすべき。
- ・女性活躍だけでなく男性の家庭進出応援、啓発活動などもしていくべき。「出会いから巣立ちまで」ということを横断的にますます取り組んでいく必要がある。
- ・子どもの頃は保育士になりたいという夢があったり、結婚したいと思っけていても、大人になる過程で、それらの夢や希望が薄れていく。そのつまずきを丁寧に分析し、サポートする必要がある。

[委員]

- ・日本は、国民性として子どもの前に結婚という意識が強いと思う。未婚の方や、これから子どもを持とうとしている方に、子育て支援に関するボランティアに関わっていただくなどして、子育ての楽しさを味わってもらうこともよいのではないか。

[委員]

- ・企業経営者にとって今一番の課題は人手不足。対策として定年の延長や外国人の活用、女性活躍などいろいろ対策しているが、抜本的な対策としては、少子化対策に向けた行政による戦略が必要ではないかと感じている。
- ・施策の周知には県の広報媒体もしっかり活用するとよい。
- ・女性活躍や、結婚、子育てのイメージアップ・推進については県のトップからわかりやすく具体的な言葉でメッセージを発信することが非常に効果的だと思う。

[委員]

- ・本計画が、こどものための計画になるとともに、社会全体につながるような包摂的、包括的な計画になっていくとよい。
- ・子育てを社会で楽しむという観点は、子育て中の人や子育てをしている人向けの観点だと思う。子育て中の人の中には、住んでいる地域の諸団体に何も所属していない方もいらっしゃる。地域の中でみんなが社会でこどもを育てていこうと捉えたときにそういった方に対する支援も必要ではないか。

[委員]

- ・乳児院全体の措置人数は減っているものの一時預かりやショートステイの利用は増えている。そのため家庭支援事業の委託事業を実施するとともに、職員が家庭に訪問することを検討している。市町との連携により方法や必要数などの実情を共有できればありがたい。
- ・医療的ケア児の一つの居場所として保護者から安心して選んでいただけるよう受け入れのための見学や研修を多く行っていく予定。現在すでに市町の保育園など受入施設もあると思うので、情報交換ができる場所がほしい。もっと横の繋がりを強くしていけば、社会で楽しむ子育てにつながっていくのではないか。
- ・自閉症スペクトラムとか知的障がいなどの発達障がい児が増えている。乳児院から家庭引き取りが困難な場合は、次の指定が必要だが、その施設を決めることがなかなか難しい。安心して受け入れていただける場所や施設の整備が必要。
- ・社会的養護で働く職員が児童入所施設の職場づくり応援事業で、住宅手当等で応援していただけることは大変感謝しているが、元の賃上げが課題だと考えている。
- ・子育て世帯への経済的負担軽減は第1子から実施することで、第2子につながるのではないか。

[委員]

- ・例えば、こどもに対するクレームなどがニュースでピックアップされていると、子育て家庭にとって大きな弊害になると思う。アンケート等で実際、困ったことやつまづいたことを聞いて、一つひとつ潰していくような政策が必要。
- ・子育ては楽しいと思える環境づくりが大事。

※欠席委員からのコメントについては【資料6】として紹介

[委員長]

- ・たくさんのご意見をいただき感謝。
- ・また、保育者や看護師の養成をどうするか、これからのこども・子育てを担う人材の確保の問題は政策とセットで議論していかなければならないと思っている。
- ・引き続き皆さまと意見交換をしていきたい。よろしく願います。

(5) 閉 会